

「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」ニュース 45

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」 広報委員会
〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階
TEL 03(3504)9800 FAX 03(5157)3180
E-Mail csm-hq@eco-texj.co.jp

晩秋の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

研究フォーラム・ニュース 45 号を配信させていただきます。

<9 月 3 日木曜、第 39 回フォーラムセミナーが開催されました>

近藤事務局長からご挨拶のあと、「繊維製品のサプライチェーンにおける、安全・安心 商品の提供と環境・社会的責任の取り組み方」と題して講演をいただきました。

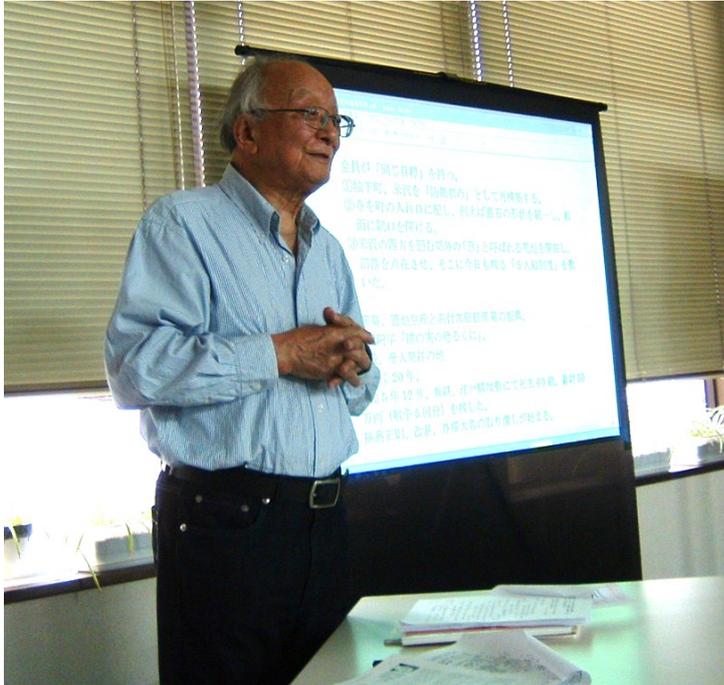
はじめに 2006 年から 2009 年にかけて施行等された RoHS 指令、PFOS 規制、REACH 規制、DMF 規制、USA-CPSIA 等、EU 及び米国を中心とした世界の安全に関する法令・規制の現状について触れました。その国際的な動向に対し、日本政府は繊維製品の安全性課題について今年 2009 年 2 月から日本繊維産業連盟にて調査が開始されたこと、また中国では独自の REACH 規制を制定する動きがあることをお話いただきました。



これらの法令・規制が発令・施行されるなか実際の企業の取り組みの様子として、スイス・MIGROS 社の 1999 年から EC（安全）と SOCIAL モニタリングの実施の仕組みにつ

いて、また USA Wal Mart 社が出した 2008 年 10 月宣言では、サプライチェーンに置ける社会・環境面の遵守状態の把握し、商品の安全管理とそのトレースと商品製造過程におけるエネルギー消費 20%減を 2012 年までに実現することが盛り込まれていることを話されました。(詳細については資料参照を)

セミナー後半では清水次郎顧問(東工大名誉教授)から、前回前半を講演いただいた「これまで 30 年、これからの 30 年・・・ Change is Chance・・・」の後半をお話いただきました。



これからの 30 年を考えるにあたり、アメリカ・シリコンバレーがどのように起こり発展していったか、その歴史とそこには産業の集積、高学歴、ベンチャーとそれを支える法律家や販売の基盤など多く発達の要因があったことについて話されました。

景気が低迷する現在、世界はアメリカ・イギリスのような借り手の国、消費する国々がある一方、中国・日本・ドイツのように貸し手の国、モノ

をつくり輸出で稼ぐ国々がある。どちらの国々も景気は苦しい。しかしどちらが回復は早いか、どちらがいろいろな工夫が出来るのかを考えるべきであるとされました。

これまでいずれの時代も新しいタイプの人々が新しい企業を生んできた。工業化社会では革新技術が、技術化社会では創造技術が、そして今の情報化社会では社会貢献が必要になると説明され、何人かの人物の企業とその成功を例に話されました。

最後に「生きる残るものは、大きいものでも、強いものでもない。ただ替わることの出来るものだ。」というチャールズ・ダーウインの言葉を引用され締めくくりました。

3 時間にわたるセミナーの後、懇親会が催され会員相互の情報交換が活発に行われました。



<次回、第40回 フォーラムセミナー開催のお知らせ>

間もなく開催される第40回フォーラムセミナーでは特定アミン規制物質など繊維の有害物質について財団法人 日本繊維製品品質技術センターの田坂部長からお話をいただく予定です。

日時 2009年11月5日 木曜 14:00~17:00 (17:00~懇親会)
「繊維製品の有害物質について(特定アミンを形成するアゾ色素など)」
財団法人 日本繊維製品品質技術センター
東部事業所 部長 田坂俊樹氏

セミナー終了後 17:00より懇親会

編集後記

- ・ 今回はニュース44号の発信がお遅れ申し訳ありません。
- ・ 記事掲載の清水顧問は中国の投資会社からの招待で10月11日から20日の10日間中国へ行かれました。次回5日おフォーラムセミナーでは、清水顧問の観た最新の中国の話を知ることが出来るかもしれませんので編集担当としても楽しみにしておます。

以上